令和５年度　第２回土佐和紙総合戦略推進会議本会議　議事要旨

１　開催日時　　令和６年３月 27 日（水）10:00～12:00
　　（場所：紙産業技術センター２階研修室）
２　出 席 者　　出席者名簿のとおり
３　議　　題　　①令和５年度の取り組みの総括について
　　②第２期戦略の改定について

４　議事要旨

議題①令和５年度の取り組みの総括について

〇令和５年度の取り組みについて報告（事務局から）
　それを受けて、各委員からの意見は以下のとおり

　木村委員（小津和紙）
　・今回の土佐和紙展は、展示内容や見せ方などが良かったと思う。ただ、当店に来店される方のほとんどが自身で創作活動をしている方なので、最終成果物である和紙作品の展示がすぐに購入にはつながらなかった面はあるが、面白い試みだったのではないか。

　松井委員（高知県中小企業団体中央会）
　・土佐和紙展は４年ぶりの開催であり、今回県の委託事業で生まれたコラボ商品も展示し、アンケートの回答数も目標の 100 件を達成することができた。来場者からの反応もかなり高評価であった一方、値段が高額だという厳しい意見もあった。今回の結果をふまえつつ、来年度以降も展示会など、販売につながる場があれば支援していきたい。

　岡崎委員長（工業振興課）
　・説明されていた商品開発でできた商品は５件だったが、KPI の数値を見ると 24 件となっている。そのほかにも商品が生まれたのか。

　事務局
　・ここで紹介した５件の商品以外にも、和紙生産者とクリエイターとの間でいくつもの商品が生まれた。委託事業が終わってからもこのような関係が続くことを期待している。

　議題②第２期戦略の改定について

〇KPI の再設定について説明（事務局から）
　それを受けて、各委員からの意見は以下のとおり

　信吉委員（産業振興推進部）
　・土佐楮は現状足りているのか、それとも足りていないのか。

事務局

・年間生産量や流通状況の正確な把握が困難であり、在庫の使用や前提条件となる取引価格次第でも使用実態は変わってくるため、充足しているかどうかを判断することは難しい。一方で、使用量はある程度正確に把握することができると考えられるため、今後生産量調査の調査項目も見直しながらしっかりと追いかけをしたい。

田中副委員長（高知大学）

・他県では 99%は輸入原料やパルプを用いているところもあり、大産地であっても輸入原料を多く使用していることがある。そのため、なぜ土佐楮が必要なのかという問題に立ち返り、守っていくのであれば（他県でも例がある）県内産楮に補助金を出すなどの支援策を検討することも必要ではないか。

大原代理委員（手すき和紙協同組合）

・以前は明らかに土佐楮が不足していると感じる時もあったが、現在は、お客様がどういった和紙を求めているかで、職人は土佐楮や海外産楮を上手く使い分けしている。もちろん土佐楮は無くてはならないものだが、どこまでこだわって利用促進するかは再度考えていく必要がある。

岡崎委員長（工業振興課）

・土佐楮は文化的な意味合いでも後世に残していくべきものであると考えるため、今後支援策についても検討していく。

〇令和６年度の PDCA シートについて説明（事務局から）

それを受けて、各委員からの意見は以下のとおり

門田代理委員（土佐市）

・R6 年度委託事業について、後継者獲得に繋がることを期待している。

市としても後継者獲得を重要な課題と捉えている。

尾﨑委員（いの町産業経済課）

・R6 年度委託事業について、土佐和紙の需要拡大も狙っていることを、嬉しく思う。

クルーズ船が来航していることもあり、いの町の土佐和紙工芸村くらうどにはおよそ 700 人もの観光客が来た。令和８年には国民文化祭なども開催されるため、今後に期待したい。

木村委員（小津和紙）

・年々土佐楮の使用ニーズは変化してきており、購入者のこだわりも様々なので、無理に土佐楮の利用促進を進める必要はなく、より良い在り方を議論していけるとよい。

中内委員（歴史文化財課）

・R6 年度の活動について、まずは典具帖紙・清帳紙の技術を残すということと、またその技術で、きちんと生計を立てられないといけないということを理解して、支援していきたいと考えている。

〇第２期土佐和紙総合戦略 R6 年度の改定について

第２期土佐和紙総合戦略の一部改定について、委員から承認を得た。

以上をもって、令和５年度第２回土佐和紙総合戦略推進会議本会議を閉会した。